

共生

奈良県生協連

2023年4月

NO.128



第32回 奈良県生協大会
地域で安心して暮らし続けるために
～コミュニティナースの活動に学び、地域を元気に!～

もくじ

第32回奈良県生協大会……………	1・2	奈良の先行事例に学ぶ脱炭素のまちづくり…	6
2023年度奈良県生協連が取り組んでいくこと…	3	若者応援プロジェクト奈良II……………	7
おじゃましました～コープ自然派奈良の巻～…	4	奈良県社協とのラウンドテーブル……………	8
脱炭素革命への挑戦		奈良県防災統括室との懇談会他……………	9
～世界の潮流と日本の課題……………	5	なら消費者ねっと……………	10

第32回奈良県生協大会を開催しました 地域で安心して暮らし続けるために ～コミュニティナーズの活動に学び、地域を元気に!～

3月4日に奈良ロイヤルホテルにおいて、第32回奈良県生協大会を開催しました。生協関係者の他に自治体、社会福祉協議会、医療・福祉分野から115名の参加者がコミュニティナーズについて学びあう機会になりました。森宏之生協連会長から「安心してらせる地域づくりの取り組みとしてコミュニティナーズの活動に学びたいと思います」と挨拶がありました。ご来賓の水谷勝則奈良県文化・教育・暮らし創造部次長からは「コミュニティナーズの活動はまさに安心してらせる地域づくりにつながるものです。ご支援・ご協力をお願いします」とご挨拶がありました。



森 宏之会長



水谷 勝則次長



司会 藤本 隼平理事

基調講演 知っていますか？コミュニティナーズ 矢田明子 (Community Nurse Company株式会社代表取締役)



矢田明子さん

父親の死を経験し看護師をめざしました。その時、病院で患者を待つのではなく町の中でおせっかいをやくコミュニティナーシングという考え方に会いました。人やまちを元気にしていくコミュニティナーズは、職業や資格ではなく実践の在り方です。そこで二つのことに挑戦しました。一つは住民や地域と関係性を築きコミュニティナーズの活動をどのように展開するかを具体的に学べる「育成システム」をつくること、二つ目はコミュニティナーズを仕事とし、収入を得ながら持続可能な形で継続できるモデルをつくることです。

島根には看護師さんがコミュニティナーズのヒントを求めて来られます。答えを教えるのではなく実践事例をもとに学ぶ講座を設けることにしました。2016年から開始し、全国で1,100人の修了生が各地域で活動されています。2022年から看護テキストにこの活動が掲載されるようになりました。

奈良県職員が島根に見学に来られたことが、奈良県との出会いです。2017年に初めて「奥大和コミュニティナーズ養成講座」を開設され、現在県内8市町村で8名が活動をされています。奈良県は、自治体では全国で最初にコミュニティナーズ育成に取り組まれ「コミュニティナーズと言えば奈良!」と言われる学びの聖地を目指しておられます。島根から広げきれなかった取り組みが奈良から全国に広がっています。

クロス
×
トーク

奈良がコミュニティナーズの聖地になる ～コミュニティナーズの聖地に奈良がなるには～

登壇者：矢田明子さん(司会)
米田学知事公室次長(南部東部振興・移住交流推進)

梅本久美子さん(コミュニティナーズ 川上村)
吉田由香生協連理事(市民生活協同組合ならコープ理事長)

米田さん 県内19市町村を奥大和と呼び、その面積は8割ですが、人口は1割と過疎が進行しています。10年前から移住交流・推進室で移住推進に取り組んできましたが、島根で矢田さんからコミュニティナーズの取り組みをお聞きし、奈良県内19市町村を矢田さんと3日間で訪問しました。最初はなかなか理解されなかった中で川上村村長が「一番やりたかったことだ」と感動され翌月にはコミュニティナーズを導入されたのが最初です。



米田次長



梅本さん

梅本さん 病院で看護師や訪問看護をしていましたが、病院・施設で亡くなる方がほとんどです。自分の住み慣れた地域で家族と一緒に過ごせる時間に関われる地域看護に感銘し、川上村村長からお声がけいただき川上村に戻りました。一般社団法人かわかみらいふ（川上村北和田）で村内を巡回している移動販売車に同行し、住民さんの見守り、健康づくりを支援しています。住民さんの情報をみんなが日報に記入し、私が気になる情報を必要な機関へつなぐ役割を担っています。

吉田さん ならコープの「2030年ありたい姿」では「学び、体感し、広め、伝え合うこと」を事業と活動の柱にしています。下市ステーションでは地域に開かれたコミュニティの拠点になっています。また奈良県医療福祉生協では「笑顔でつながりチャレンジ2022」で健康づくりにつながることで「暮らしの中で笑顔の種を探しましょう」と呼びかけています。組合員活動による学びあいや教えあいでなく各地域で生活を営んでいる組合員の知恵やキーパーソンとつながって行きたいと思えます。



吉田さん

会場からの発言を基に登壇者と活発にトークが進みました（主な発言要約）



会場の様子

・「おせっかいクラブ」(仮称)が必要な時代です。ちょっとしたおせっかいで若い人たちの子育て・虐待などの問題解決の機会になるのではないかと。おせっかいはネガティブではなく本来の良さである相手を考えて一歩踏み出すきっかけになる。日本中が心の過疎状態にあり、体・心を使っておせっかいを広げコミュニティナースと共におせっかいの相乗りを広めて行きましょう。

・少子高齢化が進む中で、行政や医療制度だけでは手の届かない、コミュニティ機能やまちの人との関係づくりがますます重要になってきます。この活動が全国の津々浦々まで広がり安心してらせる社会になればと思います。

奥野裕和生協連副会長から奈良県生協連「2030年ビジョン 学び・気づき・つながりあい～笑顔あふれる地域共生社会づくりの実現のために私たちに出来ることは何かを考えて取り組みを進めてまいります」との閉会の挨拶がありました。

閉会後も、矢田さんやクロストーク登壇者、参加者同士で活発に交流がされました。



奥野裕和副会長

アンケートより



「コミュニティナース」という言葉、初めて聞きました。「健康おせっかい」がある社会、本当に大事だと思います。人と人とのつながり最近では気薄です。その中でこの活動は重要です。医者でもなく、看護師でもなく地域の方又私たちができる活動なのですね。若い人から高齢者まで安心して暮らせる地域になれるように、これからもこの活動が全国に広がっていけばと思います。

・地域で安心して暮らせるために必要なおせっかいだと思います。コミュニティナースのマインドが広がることで安心して暮らせる未来が広がるように思いました。みんなで創り上げるものというところが一番心に残りました。自分にできるところから取り組んでいきたいです。憧れのコミュニティナースの働き方をしたいらと思います。

はじめて聴く内容でしたが、すばらしい取り組みであり、しかも全国でどんどん広がっていると聞き、衝撃です。奈良がその学びの聖地となっていることに誇りと感じますが、長年の生協の取り組みや地域の活動が、きっとベースにあるのだと思います。健康に加え、介護や家計の問題、防災や防犯や消費者被害の防止、全てが地域の人のつながりの中で緩和したり解決したりするものだと思うので、住民それぞれができる事を少しずつ担って協力していければいいと思いました。

2023年度奈良県生協連が取り組んで行くこと

2030年ビジョン「学び、気づき、つながりあい～笑顔あふれる地域共生社会をめざして」に取り組みます。

(1) 生協の事業発展を通して、協同組合の理念と価値を広め、地域共生社会づくりに貢献します。

- ①協同組合員間の交流・連携に努めます。
 - 1)奈良県協同組合連絡協議会で協同組合デーのつどいや30周年企画の開催を検討します。
 - 2)日本協同組合連携機構(JCA)が提唱する協同組合のアイデンティティ声明見直しに関する学習や議論の場に参画します。
 - 3)日本労働者協同組合連合会や近畿労働金庫と連携します。
- ②協同組合理念の学びや実感できる場をつくります。
 - 1)協同組合の存在意義や価値を学ぶ企画は、都度テーマを設定し開催します。
 - 2)奈良県生協大会は、地域共生社会について学び、参加の幅を広げつながりの機会をつくります。
- ③地域防災と被災地支援に取り組めます。
 - 1)県の防災統括部門と定期懇談で災害発災時の連携強化に努めます。
 - 2)奈良防災プラットフォーム連絡会へ参画し、三者連携(行政・社協・NPO諸団体)について学習や交流をすすめます。
 - 3)被災地の復興に向けた支援企画へ参加し、取り組みを紹介します。
- ④消費者市民社会の形成に寄与します。
 - 1)なら消費者ねっとの適格消費者団体認定を支援します。
 - 2)消費者支援機構関西KC'sの活動に引き続き参画します。
- ⑤平和の取り組みを推進します。
 - 1)戦争も核兵器もない平和な社会の実現に向けてピースアクションをすすめる会と「ピースアクション in なら」などの平和活動に取り組めます。
 - 2)被爆者手記集「奈良県のヒバクシャの声～地域で継承する被爆者の思い第一集」の平和学習への活用をめざします。また、第二集の発行に向け奈良県の被爆体験を掘り起し、奈良在住の被爆者証言の継承に引き続き努めます。
 - 3)大学生協の学生委員による平和活動「Peace Now! 奈良」を支援します。
- ⑥地域共生社会をめざして取り組みます。
 - 1)再生可能エネルギーをすすめる諸団体と連携します。
 - 2)なら健康・省エネ住宅を推進する県民会議の「奈良県民の生命と健康を守るための県民運動」を支援します。

(2) 会員のための連合会として会員の健全な発展を支援します。

- ①会員と社会的諸課題を学び考える場を設けます。
 - 1)会員生協の役職員を対象に、活動や運営に貢献する研修会を開催し情報提供に努めます。
 - 2)憲法、平和、環境、福祉、食の安全、消費者課題など他団体と連携し、学習に取り組めます。
 - 3)食の安全や評価に関する科学的知見、食料自給率などは行政の動向から最新の情報を学び情報提供します。
- ②会員同士の活動交流と連帯をすすめます。
 - 1)会員同士の情報交換や学習・交流の場として、理事長交流会や生協組合員理事交流会を開催します。
 - 2)大学生への応援活動は情報収集に取り組み新たな支援の形を検討します。
- ③渉外・広報活動を強め、生協の社会的活動の認知度向上に努めます。

(3) 地域社会に対して生協の窓口としての役割を果たします。

また、同時に県行政や諸団体と地域とのネットワークの一翼を担います。

- ①生協・行政協議会、各審議会に参加し消費者の立場で意見反映に努めます。
 - 1)近畿地区生協・行政合同会議を通じて行政との交流、相互理解に努めます。
- ②安心して暮らせる地域共生社会づくりに取り組みます。
 - 1)奈良県医療福祉生協の健康づくりを支援します。
 - 2)社会福祉法人奈良県社会福祉協議会とラウンドテーブルミーティングに参加し、情報交換や取り組みを共有し、新たな取り組みにつなげます。
 - 3)「奈良子ども食堂ネットワーク」の共同事務局として子ども食堂を支援します。また、フードバンクの活動を支援します。
 - 4)子どもの貧困や虐待、ヤングケアラー、ジェンダー問題などの理解や共感を深めるために学習や情報配信、他団体と連携して取り組みます。
 - 5)2024年度介護保険制度改定に向け、会員や福祉団体とともに自治体を訪問します。
- ③近畿地区府県連生協・近畿農政局との懇談会や関西消費者団体連絡懇談会に参加し、生協や消費者の声が政策に生かされるように(交流を通じて)要請します。

おじゃましました // コープ自然派奈良の巻

おひろめフェスタ

新センターで **食べて** **買って** **遊んで** 体験



新センターの敷地に様々な商品販売やイベントが出店



受付 新センター施設案内ツアーの受付があり参加写真提供 photo きむらまどか @cocomadocolour

2023年1月21日土曜日11時から2時半まで、コープ自然派奈良の新センター(磯城郡田原本町西竹田33-1)のおひろめフェスタが開催されるとお聞きし、取材に出かけました。

新センターの敷地では自然派Style商品販売、お餅つき、クイズラリー、新センター施設案内ツアー、ポン菓子作り、ぐるぐるマーケット(衣類、おもちゃの交換市)、種の交換会、配達お仕事体験、キッチンカーde撮影会、種ブローチワークショップ、おひろめカフェ、組合員活動紹介展示など多彩なイベントが開催され、組合員さんでにぎわいました。

おひろめフェスタ実行委員長の
西澤亜希子常任理事に
お聞きしました。



パン工房では、山食パンと角食北海道ミルクパン1.5斤が作られます



チルド冷蔵室

フローズン冷凍庫

2階キッズルームと活動室



活動室は下北山村産木材をたくさん使って作られ、木がもたらすほっこりした空間。理事会もそこで開催されるそうです。事務所も広々でした



組合員理事や職員で、長く検討してきました。コープ自然派奈良は20周年です。センターを建てることができました。20周年記念として式典を行い、冊子を作りました。コロナ禍ですが、今回おひろめフェスタを開催した皆さんの組合員さんに見ていただくことができよかったです。

講演会

「脱炭素革命への挑戦～世界の潮流と日本の課題」

講師 堅達 京子さん

(NHKエンタープライズ・エグゼクティブ・プロデューサー)

2023年2月10日、奈良県コンベンションセンター会議室204でNPO法人サークルおてんとさんが開催するにあたり、奈良県生協連も共催しました。生協関係者、NPO、行政職員、市民など83名の方が参加されました。質問用紙や会場から質問が多数出され、参加者の関心の高さが伺えました。



会場の様子

講演内容



講師の堅達 京子さん

2007年以降気候変動を伝える番組を数々作成するようになった。2015年に「脱炭素革命の衝撃」を放映し、世界のビジネスルールが激変していることを伝えた。昨年はメディア間で連携して「1.5℃の約束～今すぐ動こう、気温上昇を止めるために」キャンペーンを企画した。経済被害の回避や国民の命を守るためにも、自治体や企業のトップが考えなければいけない。気候変動は「ティッピングポイント」に近づいており、1.5℃は「地球のガードレールであり、防衛ライン」。ホットハウス・アース(灼熱地球)へのドミノ倒しを防ぐための窓があと数年で閉じてしまう。2030年までの7年間で正念場。化石燃料から再エネに転換するしかない。カーボンバジェット(炭素予算)から目標達成には排出できるCO₂の量は既に決まっている。化石燃料の3分の2は使用できない。被害を受けるのは途上国や貧しい人たち。日本は化石燃料にまだ多額を投資している。EV車でも日本は立ち遅れ、世界の再エネ100%の潮流の中、日本企業が全く立ち遅れている。脱プラスチックは脱炭素。世界では素材や設計から持続可能性を意識し市民社会も大きく変わっている。フランスでは今年1月から使い捨て容器は、紙でもプラスチックでも使ってはいけない法律ができた。レストランのメニューにも商品にもCO₂排出量が記載され消費者が選択できるようになっている。建物の断熱も重要で健康にもよい。目標達成のために海と森を保全してもっとCO₂を吸収させる必要がある。小手先ではなくOSを変える必要があり今がラストチャンス。大切なのはスピードとスケール。一人一人の行動が公正で公平な社会へと動かせる。生き物たちと私たちの未来を変えるのは10年後では手遅れ。今しかない。

アンケートから

目が醒めました。まずは自分ですることからします。(フードロスをなくす。見識のある政治家を選ぶ。マイボトル、エコバッグを励行する。プラを減らす。)

今日の講演は私がこれまでに聞いた講演の中で最高の内容でした。出来るだけ多くの日本人に聞いてもらいたいと思います。

改めて脱炭素の推進をしなければと強く思いました。

「科学者からの最終警告」「確信度が非常に高い」「有事対応が必要」衝撃的でした。「声を上げる」「出来ることをする」心がけます。

今まで脱炭素について理解していませんでした。資料を家でじっくり読みます。家族にも伝えます。

ゼロカーボン実現支援セミナー

～奈良の先行事例に学ぶ脱炭素のまちづくり～



奈良県内自治体によるゼロカーボンの取り組みの推進を支援する目的で(一社)地域未来エネルギー奈良が開催するにあたり、奈良県生協連も共催しました。会場とオンライン併用で開催しました。

なぜ先行地域に取り組むのか、推進体制をどう構築するのかについて先進事例を伺い、まだ取り組んでいない自治体にとっては、なぜ「脱炭素」を自分の町で取り組まないといけないのか、なぜ政策課題が目白押しの方行政の中で優先順位を押し上げていく必要があるのか、自治体にとってのメリットはどこにあるのか、環境担当部署の取り組みだけでは困難でありどうして全庁的に推進するべきなのかなどについて、地域・自治体における脱炭素の重要性、まちづくりとの関係性について考える場を持ちたいと思い、様々な関係者と連携して開催しました。



会場とオンライン併用で開催



申込者は、会場に行政の方は4名、オンラインでは13名、その他は関係NPOやストップ温暖化推進員、生協関係者で合計47名でしたが、最終的には、会場に20名、オンライン20名で、合計40名の方(講師2名、スタッフ9名含む)が参加されました。

基調講演の藤野純一さんはビデオ録画による講演で「脱炭素は地域を豊かなものにするものなのだ」ということを強調されました。

事例として、三郷町の脱炭素先行地域に関する取り組みについて、三郷町まちづくり推進課主査の荒木貢さんから報告。地域課題解決と脱炭素化の同時実現の可能性が先行地域採択のカギを握るというお話がありました。次に天理市立南中学校におけるPPA太陽光発電の導入について(株)コープエナジーなら戸田拓也さんから報告。PPA※活用のメリットの話がありました。その後、会場を中心に質疑応答と意見交換を行いました。

自治体の方から、「なかなか取り組みが全庁的にはならないので、今後も継続してこのようなセミナーを開催してほしい。次回は総務部など他の部の職員などと一緒に学びたい」との感想が出されました。

※PPAとは、太陽光発電の事業者が自己資金、もしくは投資家を募って資金を集め太陽光発電所を開設し、再生可能エネルギー由来の電気を購入したい需要家と電力購入契約(Power Purchase Agreement: PPA)を結んで発電した電気を供給する仕組み。(出展:太陽光発電協会HPより)

14:00 開会あいさつ

プログラム

14:05 基調講演「なぜゼロカーボンが重要なのか?脱炭素のまちづくりの意義と動向」

講師:藤野純一さん(公益社団法人地球環境戦略研究機関 上席研究員 サステナビリティ 総合センター プログラムディレクター)

14:25 事例報告①三郷町の脱炭素先行地域に関する取り組みについて

14:55 事例報告②天理市立南中学校におけるPPA※太陽光発電の導入について

15:30 質疑応答・意見交換

16:10 閉会



奈良県で唯一「脱炭素先行地域」に採択された三郷町から丁寧な報告

若者応援プロジェクト奈良Ⅱ

永井学園フードパントリー



(令和4年度奈良県共同募金会助成事業)

2022年12月16日 西大寺駅近くの永井学園で留学生300人対象にフードパントリーを実施しました。永井学園の別の法蓮のキャンパスで9月にも70名に実施しましたが、実施するのは2回目です。

事前搬入に、ならコープ、奈良女子大生協、奈良県生協連など多くの方が手伝ってくださり、当日もならコープ、生活クラブ生協、奈良県生協連、永井学園を紹介して下さった奈良市職員さんなどたくさんの方の手で実施できました。



米5kg 300袋は圧巻



どうぞ、ありがとう

300人という大人数に渡すのに、午前と午後の授業でクラスごとに受け取りに来ていただき、混雑を回避するよう学園側が設定していただきました。

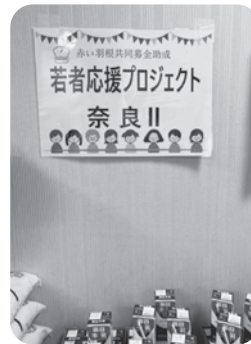
ベトナムからの留学生が9割を占め、受け取る側も、またその笑顔を見た渡す側もうれしそでした。留学生さん達はこの日が2022年の最後の授業でした。

電気・ガス代や食料品などのすべての物が値上がりし、一般消費者と同様に大学生も留学生も苦労しています。日本で学ぶ留学生は、アンケートからも日本の大学生以上に苦しい生活実態が伺えました。特に野菜や果物が自国の2~5倍であり購入できないとのことでした。生協の野菜・果物などの食品ロス削減の視点からも、今後の支援の在り方について検討する必要性を感じました。

永井学園アンケート結果

(2022年12月16日実施241枚回収)

- ・99%の留学生が自炊。96%がアルバイト。
- ・アルバイトにより、疲れて寝坊したり、授業を休んだりする影響もある(8%)
- ・日本の食品が高いと96%が回答。特に野菜・果物・菓子類が高いと回答。これらが支援してほしい食品。
- ・食品配布支援が必要(97%) 必要ない(2%)
- ・87%の学生が、お金が少なくて食べ物を買うことができなかったことがある。
- ・出身国：ベトナム89%、スリランカ12%、ミャンマー3%、インドネシア3%、インド3%
- ・日本の大学生の年齢である23歳以下が67%。27歳以上の方が14%、40歳の方もいらした。
- ・配布希望：米、果物、菓子。飲み物の要望が高い。
- ・米、インスタントラーメンの支援は妥当だったようです。



奈良県共同募金助成事業

配布した食品(1人分)
白米5kg、ツナ缶2缶、
袋ラーメン5食入り、
LL牛乳1本、防災ビスケット1包



受け取りの様子

奈良県社協と奈良県生協連のラウンドテーブル

「子ども・若者支援の動向と中高生世代への対応」の テーマで勉強会を行いました

講師 生田 周二氏 (奈良教育大学特任教授／子ども若者支援専門職養成研修所代表)

2022年4月から、奈良県社会福祉協議会の皆さんにご尽力いただき、奈良県社会福祉協議会とならコープ、奈良県生協連で「地域共生の取り組みに向けたラウンドテーブル」を開催し、「共助のしくみ化と地域社会のチカラUP」について、意見交換を行ってきました。その中で、「高校生の中途退学」率が奈良県は1.4%と全国で2番目に高いことが話題になりました。そこで、2023年2月6日に生田周二氏 (奈良教育大学特任教授/子ども若者支援専門職養成研修所代表)をお迎えし、「子ども・若者支援の動向と中高生世代への対応」をテーマに講演していただきました。(以下講演の一部をご紹介します…文責：奈良県生協連事務局)

講演の内容

1. 居場所ねいらくのキーワード：心のエネルギー（休み・遊び）、自尊感情、対話
2. 進路選択と不登校、居場所
3. 子ども・若者支援の動向



居場所ねいらくの取り組み

「居場所『ねいらく』」は、奈良教育大学次世代教員養成センターにより2017年に開設されました。居場所支援による子どもの社会性や他者とのコミュニケーション力をはぐくむこと、ならびに学習支援による子どもたちの学力向上を目的とされています。大学生のボランティアスタッフが主体となって、子どもたちと家族への支援を行っているほか、カウンセラーが常駐しており保護者からの子育て・教育相談もされています。

進路選択と不登校、居場所

1990年頃までは、登校拒否は本人の性格傾向や親の養育態度など「特定の子どもに特有の問題があることによって起こる」と捉えられていましたが、1992年文部省「登校拒否(不登校)問題について一児童生徒の『心の居場所』づくりをめざして」で、「どの子にも起こり得る」という視点でとらえる必要があると指摘されました。

- ① 様々な要因が作用すれば「どの子にも起こり得るものである」という視点で登校拒否(不登校)をとらえて指導・援助することが必要
- ② 「適応指導教室」の設置を始めとして「居場所」的な取り組みや安心できる環境や場の存在が大きなキーワードとなる
- ③ 2016年成立の「義務教育機会確保法」では辛いときは休んでもよいと「休養の必要性」が明記され、また民間フリースクールや夜間中学校などで行う「多様で適切な学習活動の重要性」が認められている

家庭でも、学校でもない、「第3の領域」の大切さ

たとえば不登校になってしまった場合、よく考えがちなのが、「学校に行けなくなったら、人生の落伍者になり、働いて収入を得られなくなるのではないか」とか、「社会に出て、人と一緒に活動できなくなるのではないか」という不安がつかまといます。ではどうすれば安心できるのでしょうか。

『第3の領域』のを知ると選択肢がひろがります。また、安心感も得られます。学校以外、どこにも居場所や育つ場がないと考えるととても苦しくなりますが、「第3の領域」に関する知識や情報を持っていれば、子どもの状況にあった支援を受けようとする安心感を持つことができます。また、学校とは異なった多様な学びの場があることは、いろいろな場へ行く選択肢が広がります。

地域には「第3の領域」に関わっているさまざまな取り組みがあります。

(不登校経験のある子どもたちの体験談の紹介も交えながら、大変詳しく充実したお話をして頂きました)

奈良県防災統括室との懇談会

1月24日に防災統括室をならコープ(木村総務企画部長、岡本同総務Gマネジャー、西川同担当)と奈良県生協連(山本専務)が訪問し、情報交換を行いました。中野順平防災統括室長、向井裕文同防災施設係長、辻航一同防災施設係と双方のBCPの取り組みについて交流しました。令和4年度救援物資図上訓練が2月20日にあり、ならコープから物資調達の訓練に参加しました。



第24回 近畿農政局と近畿地区生協府県連との意見交換会

3月1日に京都府生協連の会場をオンラインでつなぎ27名の参加で開催されました。京都で発生した鳥インフルエンザがきっかけで始まった意見交換会も24回目となりました。意見交換会を通じて農業全般の情勢や課題を学び、他生協の取り組み報告を通じて交流できる貴重な場となっています。

出倉功一近畿農政局局長から食料の安全保障をめぐる情勢、みどりの食料システム戦略、有機農業の取り組み拡大、オーガニックビレッジ、食料システム戦略推進プロジェクト、食料・農業・農村基本法の検証・見直しなどの報告があり、質疑と意見交換しました。

コープしがから(株)みんなの牧場への関りと「鳥取みんなのつながり和牛」の取り組み、生活クラブ大阪から組合員と生産者で共に取り組む「持続可能な生産と消費」、京都生協からコロナ禍に対応した生産者とのオンライン交流について各報告があり、質疑と意見交換しました。

フードバンク奈良交流会が 開催されました

地域福祉におけるフードバンク活動の意義
～食を通じた地域づくりの可能性を中心に～



会場の様子



平川理恵さん

2月19日フードバンク奈良交流会が天理教旭日大教会(天理市)で開催されました。会場には食品を寄付する側と受け取る側、それらを支援する団体など41名の参加がありました。フードバンク奈良理事長 平川理恵さんから活動報告のあと「地域福祉におけるフードバンク活動の意義～食を通じた地域づくりの可能性を中心に～」の講演を奈良県社会福祉協議会地域福祉課課長 岡本晴子さんからお聞きしました。

岡本さんの話

誰もが住み慣れた地域で暮らし続けたいと思います。社会の困りごととは特別な誰かの問題ではなく私たちにも起こることです。生活を支える直接的な公的支援はそろっていますが、社会の変化に仕組みが追いついていない状態になっています。だからこそみんなの問題として、地域の中で顔が見える関係をつくりその中で気づきを増やし、それをカタチにする居場所づくりが大切です。こども食堂は温かなご飯を囲みながらいろいろな価値観と出会い、困ったときに気づき、受け止めてくれる子どもの居場所となると教えてくれました。また食を通じた活動は、人との心の距離感を縮めるのに有効です。コロナ禍でも子ども食堂、子ども宅食、食糧支援活動等、食の支援が困りごとの発見につながりました。食の活動は福祉だけではなく、他とコラボすることで互いにメリットができ、それぞれの出番と役割が生まれる好事例となっています。そういった意味で、多様な団体が食の提供を通じて、困っている本人へ食を提供することでSDG5を受け止め、寄り添うことができるフードバンクの活動は意義と可能性があると思っています。



県社協 岡本晴子さん

その後参加者から活動報告があり「戸別訪問の際、食品を持参すると話がしやすい」「フードドライブを他の地域でも広げていきたい」など地域活動の広がりが感じられる機会となりました。

消費者のみなさまにとって 心強い存在になるために



特定非営利活動法人なら消費者ねっと 理事長 北條 正崇

みなさま、いつもなら消費者ねっとの活動に多大なるご協力を賜りまして、ありがとうございます。

当法人は、出前講座などの消費者教育活動のほか、消費者の利益を不当に害していると疑われる事業者への申し入れ活動(問い合わせや改善要求など)を行っています。

当法人のもとには「この事業者の広告は問題ではないか?」「事業者に解約と返金を求めたが全く応じてくれない」など様々な情報が寄せられており、最近では、

- 中途解約や返金を認めないオンライン英会話業者や整体院
- 「〇〇電力(有名な電力会社)の10年保証」と偽って訪問勧誘をする給湯器販売業者
- 不当に高額な費用を請求してくる水道工事業者

などの問題を取り扱っています。これらは決して特別なケースではなく、普通に暮らしている中でトラブルに巻き込まれているケースです。

しかし、当法人の事業者に対する申し入れは法的根拠のあるものではなく、あくまでも一団体による「お願い」にすぎません。そのため、事業者から無視されたり誠実に回答してもらえないこともあり、十分な結果が得られずに悔しい思いをすることも多々あります。

そこで、当法人では、よりパワーアップして消費者の利益を強く守っていきたいという考えから、2019年の通常総会で「適格消費者団体」をめざすことを決めました。

「適格消費者団体」とは内閣総理大臣に認定された消費者団体であり、消費者契約法や景品表示法などの法律に基づき、消費者に代わって、事業者の不当な広告や勧誘などを差し止める権利(差止請求権)を有する団体です。全国に23団体あり、大阪や京都や兵庫にはすでに消費者のために奮闘している適格消費者団体がありますが、奈良県にはありません。

そこで、当法人は2023年中に消費者庁に「適格消費者団体」認定の申請をするために、準備を進めています。必要な規定や組織(検討委員会、主に弁護士や消費生活相談員により構成)の整備を進めており、申請に向けて大詰め段階に入っています。また、昨年11月には奈良市六条のコープふれあいセンター六条の一室をお借りして、独立した新事務所を開設することができました。ご協力頂いております奈良県生協連・ならコープをはじめとする関連団体の皆様には心より感謝と御礼を申し上げます。

悪質な事業者には「奈良には消費者を守る強力な団体があるのでターゲットから外そう」と恐れられる存在となるよう、そして、県民の皆様からは頼りにされる存在となるよう、引き続き「適格消費者団体」の認定に向けた準備を進めるとともに、消費者教育や事業者への申し入れ活動などにも誠心誠意取り組んでまいります。

皆様には引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



なら消費者ねっと公式キャラクター
消費者太子
(しょうひしゃたいし)

なら消費者ねっと公式キャラクター
ならこ

1月

- 4日(水) 新年あいさつ訪問
- 11日(水)～12日(木) 日本生協連全国方針検討集会
- 17日(火) 県指導検査コープ自然派奈良
- 19日(木) 第5回生協連理事会
- 22日(日) ピースナウ奈良実行委員会
- 24日(火) 奈良県防災統括室との懇談会
なら消費者ねっと理事会
奈良県環境審議会水質部会
- 26日(木) 日本生協連地連運営委員会
県連活動推進会議
- 30日(月) 生協組合理事交流会実行委員会

2月

- 1日(水) ピースアクションをすすめる会
- 6日(月) 奈良県社会福祉協議会ラウンドテーブル
- 7日(火) 奈良県環境審議会
- 10日(金) 「脱炭素革命への挑戦～世界の潮流と日本の課題」(主催：サークルおてんとさん講演会
共催：奈良県生協連)
- 14日(火) 「ゼロカーボン実現支援セミナー～奈良の先行事例に学ぶ脱炭素のまちづくり」(主催：地域未来エネルギー奈良講演会
共催：奈良県生協連)
- 15日(水) 奈良県農村活性化推進委員会
- 16日(木) 日本生協連大規模災害対策連絡会
- 19日(日) フードバンク交流会(主催：フードバンク奈良)
- 20日(月) 臨時監事監査

- 21日(火) 奈良防災プラットフォーム
連絡会定例会
- 24日(金) なら消費者ねっと理事会

3月

- 1日(水) 近畿農政局と近畿地区生協府県連との意見交換会
- 4日(土) 第32回奈良県生協大会
(講演：矢田明子氏)
- 7日(火) 関西消費者団体連絡懇談会
(関西電力)、なら消費者ねっと支援会議
- 10日(金) 第3回近畿地区府県連協議会
(和歌山)
- 13日(月) ピースアクションをすすめる会
- 14日(火) 奈良県ボランティアセンター「被災者支援コーディネーター育成研修」
- 16日(木) 第6回生協連理事会
- 17日(金) 奈良県消費生活審議会
- 24日(金) なら消費者ねっと理事会

公示 奈良県生活協同組合連合会 第34期通常総会開催について

当会 定款第49条にもとづき、奈良県生活協同組合連合会第34期通常総会を下記の通り、開催致します。
奈良県生活協同組合連合会 会長 森 宏之

日時：2023年6月24日(土) 10:00～12:30

場所：奈良ロイヤルホテル 〒630-8001 奈良市法華寺町 254-1

議案：第1号議案：2022年度事業報告・決算関係書類承認の件

第2号議案：2023年度事業計画及び予算案決定の件

第3号議案：役員選任の件 第4号議案：役員報酬決定の件

選出について：会員規約第3条及び第4条にもとづき、代議員は、会員ごとに定める選出方法により選出し、
会員生協の定数は各3人とします。

編集後記

ロシアのウクライナ侵攻から1年以上が経過しても収束の目途が付きません。中村哲医師の書籍「辺境で診る辺境から見る」や講演で「戦争協力が国際的貢献とは言語断絶である。武器を鍬に持ちかえよう」と言われていました。「国際的貢献」という名のもとで、どれだけの罪のない人々が命を落とされたことか。戦争被爆国である日本が国際世論を高め、戦争終結が一日でも早く実現することを祈っています。(弘)

2月に家族のコロナ感染で私も濃厚接触者として自宅待機。1週間は見えない敵との戦い。換気と寒気、除菌と手指の消毒、食の準備と片付け時の接触回避など疲れた。しかし、見えない敵はウイルスだけではない。最近、「温泉」や「マスク」に関する報道の中で「多数派同調バイアス」が話題になっていた。(和)

佐紀町のフードバンクセンターに行く途中で見かけたお寺の掲示板。「気も付かず 目にも見えねど つかの間に 埃のたまる わが心なり」なぜかびったりときた。(順)

寒かった冬がすぎ、庭の梅が咲いたかと思えば、桜まう季節を楽しむこともなくあつという間に桜は通りすぎていきました。しばらくは陽だまりで楽しむことにします。(佳)